

みずえだに新聞

Vol. 35
2021年4月
春号

二度目の春

コロナ禍で迎える二回目の春。みなさんいかがお過ごしでしょうか？何となく気持ちも晴れないまま日々をつつましく過ごしているような今日この頃です。しかし春は確実にやって参りました。院の駐車場の早咲きの桜も、例年同様何もなくたつたかのように綺麗に咲いてくれました。「やまない雨はない」「春は必ずやって来る」ほんとですね。憂鬱な日々に一筋の光明が差して来たそんな感じです。



毎朝の運動は欠かさず続けています。夜明けもだんだんと早くなり、ますます気持ちのいい朝です。運動の時はいつもラジオを聴いています。そこで様々な情報を得られるのですが、先日こんな話をしていました。秋田県のかほ市に疫病の神にまつわる言い伝えがあるとの事。そこでこのコロナ禍において紹介したいと思います。

二百年前の江戸後期、疫病の流行とともに広まった「仁賀保金七郎疫病神託び証文」。これはかつて秋田県にかほ市内を領地としていた仁賀保家の実在の人物、仁賀保金七郎が一八二〇年（文政三年）のある日、二人組の疫病神が仁賀保家の江戸屋敷に侵入しようとしたところを発見。疫病神を叱りつけ、その武勇におののいた疫病神が命乞いし、託び状を書いて慌てて立ち去ったという逸話に基づいたものです。

仁賀保金七郎疫病神託び証文（江戸時代に流行した疫病除け）



実体のない「疫病神」がお詫びの証文を書いたということで物語自体は史実ではなく浮説ですが、仁賀保家の証文の写しが疫病除けのお札やお守りとして広まったことは、現在、関東に数十点も残されている古文書から伺えます。先が見えない現在の

コロナ禍、二百年前も同様に、疫病で不安な世の中を乗り切ろうとする精神的な結束力が表れています。画像は栃木県鹿沼市で保存されていた託び証文です。疫病神から仁賀保金七郎に宛てられたメッセージが円形に配置されており、中心に「仁賀保金七郎（金七郎）」の名前があります。現在、仁賀保勤労青少年ホームに特設展示されています。というものです。

疫病つまり伝染病、やはり病は今も昔も人間を苦しめてきたのです。何かにすがりたいという気持ちは、今も昔も変わりません。しかし昔と違うのは、自らの努力で少しは感染を収める事が出来るという事です。



新人紹介

この春は当院にとりまして心機一転の春となりました。新しいスタッフが加わり、患者様にはよりきめの細かい医療やサービスを提供できるようになるかと思えます。新たなマンパワーをもって日々皆様の健口のために頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。また不慣れなため皆様にはご迷惑をお掛けすることもあるかと思えますが、そこは温かい気持ちで支えてやって頂ければ幸いです。

受付事務

やまさき
山崎 萌
もえ



四月から新しく入りました、山崎萌です。鹿児島県立短期大学では経済について学びました。趣味は読書で、先日は本棚を三時間かけて組み立てました。いつか、ハリー・ポッターシリーズを英語のままで読みたいと思っています。社会人一年目で、ご迷惑をおかけするかもしれませんが、一生懸命頑張ります。みなさんが、笑顔になれるような受付・事務を目指します！よろしく申し上げます

受付事務

やまのくちかのん
山之口華音



四月から受付事務として働かせて頂いています山之口です。短大では英語を専攻していました。コロナが終息したら、海外へたくさん旅行に行きたいです。趣味は音楽を聴くこと

で、特に音楽が好きです。仕事ではまだ慣れることに必死ですが、笑顔だけは忘れずに明るく頑張ります。早く仕事を覚え、患者様に信頼されるようになりたいです。至らないところもあるかと思いますが、これらよりしくお願いいたします。

歯科衛生士

すえづるともこ
末鶴知子



三月から勤務させていただいてます歯科衛生士の末鶴です。美味しいパンやカフェ探しが好きです。なかなかお店には行けなくても本をみて行ってみたいお店を探すのも楽しいです。まだ慣れないことも多いのでいろいろ勉強させてもらいながら早く仕事に慣れていけるよう頑張りたいと思います。よろしく申し上げます。

歯科受診による感染リスクが極めて低いワケ

二〇二〇年四月三十日時点、日本歯科医師会からも「今日まで歯科治療を通じて患者の中での新型コロナウイルスの感染は一件もない」との発表がされています。

歯科受診による新型コロナウイルス感染のリスクは極めて低いと言えます。これは、歯科医院では当たり前のこととして行われている様々な感染予防対策によるところが大きいと言えます。歯科医院というのは、もちろん各院により多少の程度の差はあれど、院内感染を起さないために常日頃から徹底的な対策が行われているところです。そのために、歯科医院としての通常の感染予防対策を当たり前に行っている歯科医院では、スタッフや患者様同士などの人から人への院内感染が起こる可能性が極めて低いと言えるのです。





院内研修

何でも瓦版

三月某日、院内研修会を行いました。このコロナ禍においても日々精進です。その成果を患者様に還元していきたいと思っています。

当院からのお願い

当院では必要性に応じて様々な治療において歯ブラシや歯間ブラシ、糸付きようじ等と使用しております。大変ありがたいことに、これまでも多くの患者様に歯ブラシ等のご持参のご協力をいただいております。今後なるべくご持参いただくようお願い致します。

また、ご持参になられなかった患者様へは当院の歯ブラシ等をご用意しておりましたが、昨今のプラスチックごみの削減や感染対策の観点から、令和3年4月1日以降は使用した歯ブラシ等は下記の金額でご購入して頂くことと致しましたので、ご理解の程よろしくお願い致します。

- 歯ブラシ・歯間ブラシのセット 100円（税込み）
- 歯ブラシ・糸付きようじのセット 100円（税込み）
- 歯間ブラシのみ 50円（税込み）
- 糸付きようじのみ 50円（税込み）

診療に使用した場合のみの価格ですので、上記の価格で商品のみのご購入は出来ません。他の歯ブラシ等をご希望の場合は受付で事前にご購入ください。

歯ブラシ等、持参または購入のお願い♡

この四月より当院では歯ブラシなどの持参、または購入のお願いを致しております。ひとえにコロナなどの感染予防とプラスチックごみ削減のための対策と考えております。皆様にはその主旨をご理解いただき、またご協力頂ければと思います。よろしくお願い致します。



幸恵先生の

歯のはなし



四月になり、また新学期、新年度を迎えましたね。コロナの影響で今年も花見はできませんでしたが、当院の桜は昨年比べて花の数も多く、色も鮮やかで見事に咲いてくれました。二月には桜に雪が積もるという珍しい光景も見ることができました。どんなに世の中が大変でも季節はちゃんと巡ってくるのを見ると明るい気持ちになります。新年度になり、進学や就職が決まったと報告してくださる患者さんがいらつしやいます。その中には、引越する患者さんも多く、小さい頃から診てきた患者さんが一人暮らしを始めるのと聞くと、余計なお世話とは思いつつも食生活等を心配してしまいます。生活リズムの乱れから、むし歯や歯肉炎を発症する患者さんを診ることがあるため、ぜひ気をつけて頂きたいと思っています。



私たち歯科医療に携わる者は、患者さんの健康を口を通して守る仕事をしています。ですから、患者さんの生活スタイルや、好み、性格を知ることがとても大切な事です。木を見て森を見ずと言いますが、口だけを診ていても患者さんの健康や健口を守ることはできないと考えています。かかりつけ医として、また担当するスタッフとしてより多くの話を聞かせて頂きたいと思っています。新学期を迎えて、自分の希望通りの道に進めた人、希望より少し遠回りをするようになった人、様々だと思います。後悔をしないようにと思いつつ、今は今の精一杯のつもりで過ごしているとあります。でも振り返るとやつぱり

後悔することはこれまでもたくさんありました。そしてこれからもあります。後悔しないよう日々過ごすことはもちろん大切だと思いますが、後悔に押しつぶされず、前に進む強さを身につける事も大切だと思います。失敗や後悔から得られるものもあるはずだと信じています。歯がボロボロなので恥ずかしい、もう総入れ歯になりましかと話す患者さんもいらつしやいます。口は命の入り口、心の出口、いつもかみしめている言葉です。その機能を發揮できるよう精一杯お手伝いをしていきますので、あきらめないで通院して頂きたいと思っています。

先日、治療に通っているY君が素敵な物を見せてくれました。これ何だと思いませんか？これはY君作、治療のセットだそうです。よく観察して、本物そっくりにできているなあ后感心してしまいました。初診時は、泣いて嫌がっていたのに、今では、治療

が出来るようになっただけでなく、こんな物まで作ってくれるようになり、将来が楽しみです。

今年の目標の断捨離は、思い出したように継続中ですが、捨てた時にかぎってあれがあればと思う事の繰り返しです。後悔しないようにと吟味して捨てるのですが、後悔を乗り越える強さを、こんな小さなことから身に付けていきたいと思っています。

編集後記

まだまだ新型コロナは収まることなく、その脅威を遺憾なく世に知らしめている状況です。世の中全体が閉塞感に満ち、不安で寂しい状況ですが、こんな時こそお互いがお互いを思いやって、元氣を出していきましょう。人との距離はソーシャルディスタンスですが、気持ちは寄り添うことが大事だと思います。そうすることで必ずやまた希望に満ちたこの桜の季節のような時代がきつと訪れると思います。次号は明るい話題満載の「みずえだに新聞」をお届け出来ればと思います。